

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370103956		
法人名	社会福祉法人日生会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護バニラハウス		
所在地	熊本市東区小山6丁目10-13		
自己評価作成日	令和3年10月9日	評価結果市町村受理日	令和3年12月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.k-nisseikai.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和3年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍において外出、ご家族面会が出来ない現状の中、室内で行える行事を職員全員で考え毎月行っている。ご家族へはブログ発信、写真などを手渡し様子をお伝えしている。また重度化する入所者様に合わせて個別リハビリにも力を入れ計画中である。敷地内にある協力医との連携を強化し日々の細かい情報共有を行い早期発見・治療に繋げている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年に続き本年度もコロナ感染症に翻弄された一年であったが、法人の一角に根を下ろすホームとして“あなたとともに”を合言葉に地域福祉に貢献している。中庭を共有する保育園児の声がホームに届き、直接交流が出来ない現在でも日々高齢者の心を満たすことが想像され、互いの存在がかけがえのないものとなっている。同敷地内にある協力医療機関は、入居者の健康を支えるうえでなくてはならないものであり、すぐに相談事に応じてもらえることは職員のみならず、家族にとっても心強いものとなっている。この秋にコロナにより中断していた地域との災害対策訓練が再開されたことも、終息後の地域交流の大きな足掛かりとして、今後定期的な取組が期待されることである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人研修・職員会議で理念について共有を図り、利用者様のサービスに取り組む様に実践を行っている。	法人理念である「共生、共学、共有」をホームの指針とし、入居者と共に今日を生き、今に満足することなく新たに学び合い、共に向上し合うことを目指している。今年度の事業計画に「笑顔で過ごせるホーム」を年目標として掲げており、会話の重要性やメリハリのある生活、役割ごとを共に見出すなど、入居者の笑顔を引き出すプランを掲げている。	計画に沿って具体的な支援方法を明らかにし、定期的な評価にて分析しており、今後も理念に沿ったケアの実践が期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で外出が出来ない為、買い物など地域の交流が出来ていない。	コロナ禍以前には地域の回覧板を通じてホームの情報を発信したり、近隣からの差し入れなどを受けており終息後の再開が待たれるところである。ただ、中断していた地域との災害訓練が10月に実現したことで、今後の防災対策に反映されるものと思われる。中庭を共有する保育園児との合同行事が中止となったものの、テラスから眺める園児の姿が入居者の日々に笑顔をもたらしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議に地域の方々に参加をさせていただき、施設の情報を発信している。現在は、コロナ禍であり、書面での開催を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回地域運営推進会議を開催しているが、書面での開催が続いており、意見交換が出来ずに一方通行となっている。	現在、通常開催が出来ない状態であるが、入居者の現状や活動報告、事故報告などを文章にて関係者に送付して書面審議としている。事故報告については対応策も含め詳細に伝え再発防止に努めている。	通常開催が出来ない事で参加者からの意見の引き出しが困難と思われるが、書類発送時に遠慮なく意見をもらうような働きかけや、電話などで直接尋ねる事も検討の余地があると思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの方との交流を図っていたが、コロナ禍で交流を図る機会が減少している。	包括センターの職員が運営推進会議に参加しており、ホームの情報を共有して助言を得、介護相談員の来所から入居者の思いを第三者の立場で引き出してもらう等交流が行われている。現在は中断せざるを得ない状況であるが、コロナ終息後の再開に向け、これまでの関係性を継続されるよう期待したい。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室や玄関の鍵は開放し、利用者に職員が付き添い自由に行動が出来る環境を提供している。	日中の玄関はオープンであり、自由に出入りできる状況にしている。身体拘束の研修の中で調理中など直ぐに対応できない場合に、不適切な言葉が出てしまうと職員の声があがっており一つ一つの課題に向け取り組むようにしている。職員は定期的に法人のストレスチェックにより自己評価して振り返りの機会をもち、夜間専従者との夜勤者会議においても、入居者の状態把握と拘束を行わないケアについて共通認識をもっている。	身体拘束については研修内容などを運営推進会議資料に添付することで、ホームの透明性を外部に発信する事に繋がると思われる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在、外部研修に参加できない状況であり、施設内での研修やオンライン研修を行って虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修やオンライン研修で制度の理解を深め、家族から相談があった際は、説明や情報提供が出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する事柄は、すべて説明し、同意を得て行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置している。ご家族からのご意見は口頭・電話での相談を含め、職員で話し合い結果は速やかに伝え改善に努めている。	家族意見は直接または電話などで聞き取り、食事などの意見には法人栄養士に意見を求めながら対応している。家族から出された意見や苦情については記録として残し、家族に結果を報告した上で運営推進会議資料にも包み隠さず紹介している。入居者の意見は普段の会話の中から拾い、コロナ禍でもあり、特に家族との直接面会や食への希望が聞かれるようである。毎月開催するバナラカフェは趣向を凝らし入居者の楽しみとなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議・夜勤会議の回数を増やし、職員同士の意見交換を行い、提案等を施設運営等に取り入れ反映を行っている。	夜勤専従者との会議であがった意見を日勤者による全体会議で検討し、入居者の一日の状態を共有してケアのずれなどが生じないようにしている。また、申し送りノートを活用し、職員の気付きを反映している。法人全体で資格取得へのフォローが行われており、希望休への対応や有休取得に努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働基準法を順守しながら行っている。資格取得の啓発や情報の提供を行いながら、スキルアップ出来る環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修や外部のオンライン研修を積極的に活用し、職員のスキルアップに必要な情報提供や環境を作るよう心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍でサロン等が中止になっており、交流の機会が減っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	繰り返しの説明、傾聴を行い、ゆっくり時間をかけ、場所の変化や職員の顔を覚えて貰うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との会話の時間をもち、共に利用者の生活について何度も話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	精神面・身体面・環境面を観察し、連携医や家族と相談しながら必要な支援を考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で一緒に行える事を見つけ、教えて頂いたり、昔の話を聞きながら個別に対応し、同じリズムで楽しく生活が出来るように支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に利用者の状態を密に伝え、細かな情報や変化も共有しながら本人を支えていけるように話し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で直接の面会が出来ない為、オンライン面会を中心に現状の説明を行ない、支援を行っている。	本年度は家族との面会もオンライン面会としていたが、10月以降社会の状況を見ながら時間を決めて直接面会ができるようになってきている。外出が出来なかった時期にはカフェの開催やおやつ選択、梅ジュース作りなど室内活動を通じて入居者と職員がより一層寄り添うよう工夫している。11月には家族にも声掛けしバスハイクを予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話に参加したり、場所の提供や共通の物を見つけ取り組めるように支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時等は病院に連絡を行い、状態の把握に努め、家族の心配事の相談や情報の提供を行い不安の改善に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や行動観察を行う事で、何が必要で何を求めているかを見極め、常に変化する中、職員間で情報を共有し本人に寄り添いながら、本人の思い等の把握を行っている。	コロナの状況から今年度は特に入居者と寄り添い会話をする事を大きな目標とし、時間を見ては入居者の話を聞くように努めている。入居者、家族双方が直接顔を見たいという要望が最も多かったようである。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活歴を含めた本人の全体像を確認、愛用の家具や物、写真等を持ち込んでもらい会話を多く持ち信頼関係が築けるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康チェック(バイタル測定等)や業務日誌を確認し、職員間で情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人に何がしたいか確認し、家族にはどうして欲しいか確認しながら、共にプランを考えて作れるように声掛けを行っている。	本人・家族の意向を優先したプラン作成に努めている。職員の気付きは申し送り時やノートに記録して入居者の現状を共有し、必要な支援を盛り込むよう心掛けている。年目標ともなっている入居者自身のできる力を見極め、食への関わりや排泄、入浴時に持てる力を発揮してもらう内容としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の出来事や観察した事、職員が感じた事、その時の対応など記録に残し、色々な角度から気づきを話し合っ反映を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	健康状態に応じて、関連施設の紹介や母体施設への転居も話し合いながら、本人に一番良い環境は何か考えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナ禍で地域交流が出来ない為、落ち着いたら地域交流を復活させていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や連携病院等、利用者や家族に説明を行い、必要時は他病院への受診も検討しながら適切な医療体制が出来るように支援を行っている。	かかりつけ医については本人・家族の希望に応じており、隣接する協力医へ2週間ごとの受診や、これまでの医療機関へ3か月または状態に応じ家族によって支援されている。協力医療機関へは毎日メールで入居者の状態などを報告しており、必要に応じ専門医の紹介が行われている。また、眼科や歯科についても訪問など状態に応じ支援している。入居者の健康状態については、家族に小まめな連絡を行い、適切な医療支援ができるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師・連携医の看護師が連携し情報共有しながら、速やかな対応が出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院や家族に頻りに連絡を取りながら、利用者が一番いい方法を何度も話し合っている。他施設への紹介や帰設時の対応も話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の説明を常に行い、重度化した場合は、母体の施設と連携を行いながら、出来るだけ家族・本人の意思に添える様に話し合いを行っている。	入居時に重度化・終末期支援に関するホームの取組を説明している。家族の中にはホームでの看取りを希望する方もおられるが、現在、支援は行っておらず、、母体特養との連携を説明する他、家族の不安にならぬよう相談事には常に応じている。	今後も日頃の関わりを大切に、入居者・家族の安心に繋がる支援の継続に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDや急変時の対応等の勉強会を繰り返し行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、防火設備点検を定期的に行っている。BCPなども母体施設などと話し合いを行っている。	今年度はまん延防止が解除された10月に地域や消防署の協力を得た1回目の避難訓練を実施し、年度末に2回目を予定している。総評として次回は、出火場所を変え、避難経路の確認について意見が出されている。備蓄については月1回確認し、必要な補充などを行っている。	火災は火を出さない事が1番であり、今後は室内やコンセントの埃などを含めた、安全チェック表の活用も有効と思われる。また、家族にも訓練への参加を呼びかけ、意見などを受ける事で、安心に繋がると思われ、今後の取組に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けが適切か等、職員間で気になる事があれば職員会議等で話し合いを行っている。	呼称は入居時に家族へ確認し、苗字や下の名でも対応している。また、同性介助への要望にも応じている。身だしなみの支援として、衣類の選択は本人の希望や、職員も普段の関わりからさりげなくサポートし、髪のカットは訪問理美容支援が行われている。敬老会は特にホーム内で楽しめる大切なイベントの一つであり、入居者にネイルやお化粧、ハンドマッサージを楽しむ取組みも行われ好評だったようである。	入居者の部屋に入る際は在室の有無に関わらず、ノックや声掛けによる了承が必要と思われる。取組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者のペースに合わせて会話し介護者中心の会話にならないように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	いくつかの選択肢を提案し、本人が選んで参加出来るような支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えはご自身で選べる利用者は選んでもらい、一緒に用意している。日々の髪型や散髪・髪染めの希望を家族に伝える等の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の介護度も上がり、料理・片付け等一緒に行う事が難しくなっている。誕生日には本人の好きなメニューの提供を行っている。	開設時より手作りの食事提供に努めており、献立は母体法人のものを使用し、希望、差し入れ野菜などを活用しながらアレンジしている。また、1、15日は赤飯が用意されている。個々の嚥力に応じた食形態や、食事が進まない方には、法人管理栄養士と相談した栄養摂取に取り組んでおり、家族の安心にもつながっている。入居者の状態から一緒に調理を行う機会は困難になっているが、団子作りや梅ジュースのへた取り、干し柿作りなど出番が用意されている。	入居者の代弁者として、職員の感じた味や量、盛り付け、入居者の一言などを記録に残し、今後活かされることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作成したメニューに添って食事の提供を行っている。魚が苦手な方・肉が苦手な方には代替の食材を提供している。食事量や水分のチェックを行い、状態観察に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。口腔内を確認し、必要時には訪問歯科の診療が受けられる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、排尿パターンを把握し、誘導や付き添いを行っている。間隔が長い利用者には声掛けを行っている。	把握した排泄パターンを共有し、個々に応じた誘導や声掛けを行っている。トイレは3か所設置されており、それぞれ使い慣れた場所を利用されている。便秘がちの方も多く、水分補給や運動など個別に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄確認表を作成し、排便の確認、便の性状を確認している。水分摂取の促し・運動や腹部マッサージ等、個別に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、週2回行っている。季節によって菖蒲湯・ゆず湯など楽しんでもらっている。	平日は毎日入浴の準備を行い、基本的に週2回の支援を行っているが、夏場(7、8月)は回数を増やしている。浴室は明るくプライバシー確保のため、木の柵が設けられているが、緑の木々も眺められゆっくり寛げる空間である。5月には地域の方からいただく菖蒲や12月には柚子を使った季節湯も継続されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や本人のペースに合わせて、臥床の時間を作っている。夜間は室温を調整し衣類や布団の調整を行いながら、気持ちよく寝られるように支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は全職員に知らせ、注意点は看護師が都度説明を行っている。与薬時も誤薬が無いようにダブルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し・テーブル拭き等出来る方に役割を持ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出が出来ないため、施設内でのレクリエーション等に力を入れ、利用者にとストレスを感じさせない様に工夫を行っている。	以前のような外出支援が出来ないことから、職員はホーム内のイベント(毎月のパニラカフェなど)や季節の草花をホーム内に飾り外出気分を味わえるようにしている。完全ではないが感染症が落ち着いている今をチャンスとし、近々動植物園への外出を計画しており、家族の了解も得ている。また、自宅への外泊についても要望が出されている。今後も現状を見ながら、入居者や家族の笑顔に繋がる外出支援に取り組みたいとしている。	まだ終息が完全に見えない現状から、引き続き外出支援に代わるホーム内での楽しみ事の充実を期待したい。旅に関する雑誌の配置やDVDなどの活用も有効と思われる。また、ベランダや敷地での日光浴や散歩など身近な外出支援の継続が期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、外出が難しい為、何か欲しい物があれば、職員が買い物に出掛けている。今後落ち着けば、買い物等へお連れし、ご自身でお金を所持し使えるように支援をしていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は、家族に電話したり、ハガキを書いたり出来るように声掛け支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明器具は柔らかい明るさの物を配慮している。居間には花を飾り、季節を感じていただいている。	木材を活かした造りのホームは、隣接する保育園児の声を聞きながらゆっくり過ごせる空間となっている。日中は中央のリビングで過ごす時間が多く、職員は特に適切な照明や室温管理に努め、冬には暖炉に火が灯されている。テーブルの高さや席の配置も個々に応じて検討しており、それぞれが気兼ねなく過ごせるよう配慮している。	経年と共に物品の量も増え、掲示物や備品の傷みなども表れることから、今後も定期的な見直しの機会を持たれることが期待される。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が同じテーブルになる様に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具を持ち込み、家族写真や飾り等本人の希望に添った居室作りを行っている。	法人パンフレットには、ホームの居室も木の温もりを感じられる空間である事が写真とともに紹介されている。入口にはあさがお、ひまわりなど身近な花や木々を木彫りにし飾られている。掃き出し窓で圧迫感のない部屋には、家族と相談しながらテレビや椅子、写真、小物などが持ち込まれており、掃除は職員が共有して行っている。また、リビング同様、感染症への対応から特に換気も徹底している。	現在、家族の面会は控えている現状である。今後も家族に代わって衣類の管理(衣替え、取り違いはないか等)を含め居室の環境整備に努めていかれる事を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室名は各々花の名前をつけており、ドアにはその花をモチーフにした彫刻を使用している。個人のADLに合わせて、居室の環境作りを行っている。		